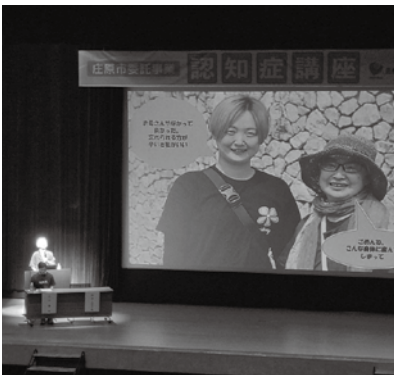


高齢者
福祉課

誰もが尊重される社会を学ぶ

第23 回認知症講座



講演する山中さん親子

6月27日、みどりしんきんホールで「第23回認知症講座」を開催し、約300人が来場しました。

この講座は、認知症への理解を深め、地域共生社会について学ぶことを目的に、医療法人社団聖仁会が毎年開催しているものです。

今回は、41歳で若年性認知症と診断され、日本認知症本人ワーキンググループ代表理事を務める山中さんのぶさんと、息子の蓮さんが「ひとりじゃないき！」と題して講演しました。しのぶさんは、「認知症になっても『ひとりではない』と考える居場所が大切。『本人』『家族』『専門職』『地域・社会』が希望を共有し、一緒に動くことが大切」と、自身の経験をお話しながら語りました。

講演後は、和田行男さんの司会進行で、山中さん親子と戸谷医院の戸谷修二医師によるシンポジウムが行われ、来場者は認知症への理解を深めていました。

政策
企画課

お試し留学で感じる、比和の暮らしと自然

令和8年度第1回お試し留学（比和地域）



◀庄原ファンクラブ
ホームページ

6月26日～28日、比和地域で本年度第1回目となる、「庄原さとやま留学（お試し留学）」を実施しました。

県内外から7人の若者が参加し、地域の暮らしや仕事、文化を体験しました。

1日目は、「比和自然科学博物館」で地域の自然や歴史を学び、モグラの毛皮に触れるなど比和ならではの魅力を体験。その後、カフェ「ノラの家」でコーヒーの焙煎を体験し、店主の滝川夫妻との交流を楽しみました。

2日目はメインの農業体験を実施。「白根りんご農園」ではリンゴの摘果作業に取り組み、「株式会社宝郷」では農業機械の試乗や田植え後の補植を体験しました。普段触れる機会の少ない農作業を通して、農業の大変さや魅力を学びました。

最終日は、地域住民の案内で、比和の歴史的景観や棚田、観音滝をサイクリングで巡り、比和山八幡神社では伝統神楽も体験。地域文化への理解を深めました。

お試し留学の最後は、「庄原ファンを増やすためにはどうすればよいか」をテーマに意見交換会を開催し、コンテンツや交通、情報発信など8つの観点から意見を交わしました。



田んぼに入り、補植作業に挑戦！



香りや色の変化を感じながら焙煎を体験

この3日間を通じて、参加者は庄原の豊かな自然や文化、人の温かさに触れ、「次は2週間のインターンに参加したい」と話す参加者もいるなど、関係人口の拡大につながる充実した留学となりました。

詳しい活動報告は、庄原ファンクラブホームページをご覧ください。

政策
企画課

交流イベントで庄原の魅力を体感！

庄原ファンクラブ関連イベント

庄原ファンクラブでは、7月12日に口和町「鮎の里公園」で、7月17日に「県立広島大学庄原キャンパス」で交流イベントを開催しました。

7月12日の「川のごみ拾い大作戦＆鮎釣り名人を見に行こう！」には、県内から12人が参加。西城川の清掃では、その美しい自然と景観を守ろうと、参加者が協力して刈った草や流木、空き缶やペットボトルなどのごみを回収しました。参加者からは「自然を目に見える形で守ることができて良かった」との声が聞かれました。

その後は、西城川漁業協同組合・津川明文組合長の説明の下、鮎の友釣りを見学し、日本の伝統的な釣法に興味深く見入る姿が見られました。活動の最後には鮎の塩焼き定食を味わい、西城川の自然や食の魅力を満喫しました。

7月17日の「関係人口創出」ワークショップ＆交流会」には、県立広島大学庄原キャンパスの学生7人が参加。

このイベントは、庄原の特産品を味わいながら、庄原でやってみたいことや庄原ファンクラブの活用方法などについて自由に意見を交わし、交流を深めることを目的に開催しました。



庄原への思いを語り合う学生たち



熟練の技が光る友釣りを興味深く見学

参加した学生からは「やりたいことを庄原で形にするビジョンが見えた」といった感想も寄せられ、庄原との新たなつながりを育む機会となりました。

庄原ファンクラブでは、今後本市に関心を持つ人とのつながりを広げ、交流を深める取り組みを進めていきます。

口和
支所

アナログ音源に耳を澄ませる

球楽達人の集い



レコードの音色に聞き入る来館者たち

6月7日、口和郷土資料館で、自慢の自作真空管アンプを持ち寄ってレコードなどを楽しむ「球楽達人の集い」を開催しました。

「達人」は「自称達人」の意味で、自分で製作した真空管アンプを持ち寄って、レコードなどを試聴します。

38回目を迎えた今回は、県内外から約80人のファンが来館し、試聴室は満席に。5～6台のアンプでジャズやクラシックなどが流され、真空管ならではの「耳に優しく自然な音」が会場を包み込みました。

来館者は、アンプごとに異なる個性豊かな音色にじつじつと聞き入っていました。

次回は11月1日(日)に開催予定です。

教育
指導課

言葉に込めた「私の思い」

第21 回英語スピーチ大会

6月14日、庄原市ふれあいセンターで「第21回英語スピーチ大会」を、庄原ロータリークラブ、しょうばら国際交流協会、市教育委員会の3者合同で開催しました。

小学生の部では19人の児童が出場。「自己紹介」や「将来の夢」などのテーマについて、緊張しながらも一生懸命に英語で発表しました。

中学生の部には16人が出場し、ふるさとへの思いや挑戦、自らの経験などを堂々とスピーチしました。

総領中3年の平田七海さんは「My Secret」（私の秘密）と題し、小学4年生から続けている「ひみつ日記」について発表しました。

喜びも悲しみも受け止めてくれた日記を「私を静かに応援してくれる大切な存在」と表現し、過去を振り返ることで感じた自身の成長とこれからの決意を、力強く語りました。

なお、中学生の部では厳正な審査が行われ、庄原ロータリークラブ会長賞をはじめとする三賞と特別賞が決定し、受賞者に賞状が手渡されました。



堂々とスピーチする徳永呼春さん（小学生の部）



しょうばら国際交流協会会長賞を受賞した橋本一慶さん

**第21回英語スピーチ大会
受賞者**

（順不同・敬称略）

庄原ロータリークラブ会長賞
大坂 奈央（高野中2年）

しょうばら国際交流協会会長賞
橋本 一慶（西城中3年）

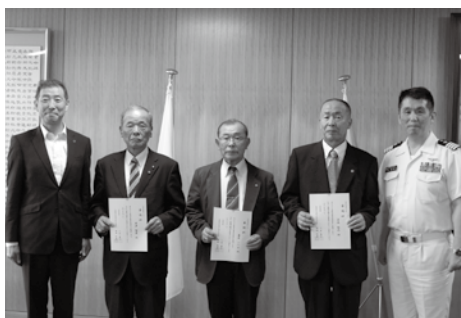
庄原市教育委員会教育長賞
平田 七海（総領中3年）

特別賞
光元杏香里（比和中2年）
伊達 美桜（高野中3年）

総務課

地域と自衛隊をつなぐ「架け橋」に

自衛官募集相談員委嘱式



左から八谷市長、井澤さん、森末さん、青波さん、田村本部長

6月29日、市役所本庁舎で、自衛官募集相談員の委嘱式を行いました。

今回委嘱されたのは、井澤継男さん、赤木忠徳さん、森末二三さん、青波倍己さんで、出席者は、八谷恭介市長と自衛隊広島地方協力本部の田村知史本部長連名の委嘱状を受け取りました。

募集相談員は、各地域で入隊希望者への情報提供や、自衛官募集の広報活動などに取り組み、地域と自衛隊の架け橋として支援します。

八谷市長は委嘱式で、「自衛隊は、我が国の平和と安全を守るうえで欠かせない存在。若い世代が自衛隊の役割や魅力を知り、自衛官への志を抱いてくれるよう、お力添えを賜りたい」と述べました。

観光振興課

地酒と美食で庄原を満喫！

庄原ヒバゴンエクスプレス運行



地酒を手に乾杯を交わす乗客の皆さん

6月27日、大阪モノレールの貸切列車イベント「日本酒列車」に、市の関係者や蔵元らが乗り込み、「庄原ヒバゴンエクスプレス」として庄原の魅力を大々的にPRしました。

今回のチケットは過去最速の発売30分で完売。当日は約120人の参加者が、本市が誇る5つの蔵元の地酒や、地元食材を使った特製ちらし寿司弁当＆酒肴セットを堪能しました。

車内では、蔵元や庄原DMOのスタッフが日本酒の特徴や芸備線、ヒバゴンの魅力を熱く語り、車内は大いに盛り上がりました。また、発着駅の万博記念公園駅では「庄原観光物産展」も同時開催し、多くの駅利用者の特産品や銘菓を販売。関西の皆さんに庄原の味と魅力を届ける絶好の機会となりました。

経営戦略課

企業版ふるさと納税で市を応援

地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）にかかる感謝状贈呈式

7月1日に市役所本庁舎で、7月6日に株式会社フレスタ本社で、企業版ふるさと納税にかかる感謝状贈呈式を行いました。

これは、令和7年度に、株式会社松原組（福山市）と株式会社フレスタ（広島市）から、企業版ふるさと納税制度を通じて寄付をいただいたことに感謝の意を表するために実施したものです。

当日は、両社の代表者や社員らが出席。感謝状の贈呈に合わせ、これまでの企業活動や本市への思い、地域の未来像などについて意見交換を行いました。

今回いただいた寄付は、市の将来像である「安心な暮らしが充実し、庄原に関わる人の未来がつながっていくまち」の実現に向け、企業の意向も踏まえながら、持続可能なまちづくりのためのさまざまな事業に有効活用していきます。

この他にも、多くの事業者から企業版ふるさと納税による寄付をいただいています。制度の詳細は、市ホームページをご覧ください。



株式会社フレスタへ感謝状を贈呈



株式会社松原組へ感謝状を贈呈